

121106 センブリ

朝晩の冷え込みが厳しくなってきたこの時期、南河内の山々を歩いてみても、あまり開花している野草は少なくなってきました。

先日、岩湧山や大和葛城山の山頂付近の草原に咲く「リンドウ」を紹介しましたが、今回はその「リンドウ」の仲間で、日当たりの良い山野の草地に自生している「センブリ」を紹介します。

「センブリ」という名前をご存知の方も多いと思いますが、「ドクダミ」や「ゲンノショウコ」などととも有名な「薬草」です。

“千回振出してもまだ苦い”ということから「センブリ」と名付けられたようです。

※ 振出し薬：布などの小袋に入れ、熱湯に浸して振り動かし、成分を溶かし出すようにした薬

実際、名前の由来どおり、非常に苦味が強く、“最も苦い生薬”とも言われているようで、テレビ番組などでは“罰ゲーム”として「センブリ茶」を飲まされたりしていますね…

胃腸虚弱、下痢、腹痛などに薬効があるようで、古くから民間薬として利用されており、現在では「当薬」（とうやく）の名で日本薬局方に収載されているそうです。

さて、「センブリ」の花をよく観察すると…

花の大きさは直径3cm弱で、薄紫色の筋がある白色です。

先端が青黒い5本の雄しべと、中央に先端の白い1本の雌しべが見えています。

発芽した芽がそのまま越冬して、翌年の秋（9～11月頃）に多数の花を咲かせてくれます。

花の少なくなったこの時期、野山で「センブリ」や「リンドウ」の花を見つけると、思わず小躍りしたくなるような気分になりますね！







